

防災における「ジェンダー平等」

池田 恵子

(Ikeda.Keiko@shizuoka.ac.jp)

静岡大学教育学部 教授
同 防災総合センター 兼任教員
減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表

何を目指すことが「ジェンダー平等」と言えるのかという大目的

1. ジェンダーに起因する被害(の格差)が軽減・解消される
それにより、被害全体が縮小する
2. ジェンダーに起因する障害を取り除くことで、男女誰もが防災に
意味ある形で参加でき、被害に対応でき、復興しやすくなる
それにより、災害に強い社会がえられる

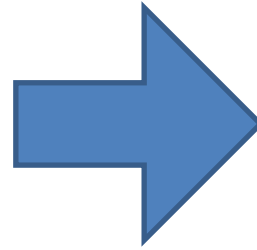
これらの目標が達成されるために、具体的に目指すこと

- a. 防災、災害対応、復興のための資源・機会へのアクセスについて、ジェンダーに起因する格差が解消される
- b. 防災、災害対応、復興において「ジェンダー・ニーズ」が的確に把握され、充足される
- c. 防災、災害対応、復興の事業・活動面だけではなく、組織面でも、人事配置・評価、事業サイクル管理、予算などに、上記a, bの視点が反映される
- d. 女性防災人材のエンパワーメントと男性の学びの機会が保証される

災害の影響は、男女で異なる

生物学的違い

ジェンダー =
社会的・文化的に形成された違い



社会通念や慣習の中で、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」による性別

社会で期待されている(又は担っている)役割や立場の違い

災害時に

- ✓ 被害
- ✓ 担う役割
- ✓ 直面する困難
- ✓ 支援ニーズ

が違う

- ① 避難行動
- ② 避難生活の環境・物資
- ③ 健康
- ④ 安全・治安
- ⑤ 働く・稼ぐ
- ⑥ 子育て・介護・家族の世話
- ⑦ 家庭での災害に関する役割
- ⑧ 地域での災害に関する役割

災害リスク管理・削減で、ジェンダー視点を取り入れるには

知る必要があること

1. どのような被害や被災経験の格差が、対象社会で見られるのか。
2. 被害や被災経験の格差が、なぜ、どのように生みだされているのか。
3. そこからどのようなニーズが考えられるか。

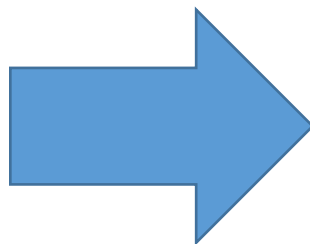
男性と女性の災害対応における

役割

責任

権利

資源



リスクと脆弱性の差異

被害を避け、被害から回復する能力の差異

a. 防災、災害対応、復興のための資源・機会へのアクセスについて、ジェンダーに起因する格差が解消される

東日本大震災時の状況（地域住民）	アクセスの有無・強度	
	男性	女性
発災前 <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの情報 備蓄物資の決定 避難所などの活用に関する知識と決定 避難訓練の決定 家庭の備え 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓✓ ✓✓✓ ✓ ✓✓✓ ✓ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ✓ ✓✓✓
発災直後 <ul style="list-style-type: none"> 警報の伝達・理解 避難所 救援 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓
避難生活 <ul style="list-style-type: none"> 物資 医療サービス 安全な避難場所 ケアに必要な環境 避難所運営の意思決定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓ ✓✓✓ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓ ✓✓✓ ✓✓ ✓✓ ✓
復興 <ul style="list-style-type: none"> 仮設住宅、復興住宅 弔慰金、補償など 雇用・収入 復興の情報 復興の意思決定 交通手段 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓✓ ✓✓ ✓✓ ✓✓✓ ✓✓✓ ✓✓

b. 防災、災害対応、復興において「ジェンダー・ニーズ」が的確に把握され、充足される

実践的ジェンダーニーズ

- 女性の現状に基づき、緊急の必要性に応えるもの。
- 気づきやすい。
- 短期で生活状況を改善できる。
- 固定的な性別分業や社会関係を変化させることはできない。

例:

- ✓ 食料、飲料水、医療サービスなどの提供
- ✓ 家計補助的な収入源
- ✓ 女性向けの職種の職業訓練

戦略的ジェンダーニーズ

- 既存の権力の不均衡を変えることができるようにするもの。
- 気づきにくい。
- 長期的な取り組みが必要

例:

- ✓ 性別分業の是正
- ✓ 地域・政治への参加・発言権
- ✓ 家事、育児の負担の軽減
- ✓ 男性に有利な法律など、制度的な差別の撤廃
- ✓ リプロダクティブヘルス・ライツ
- ✓ 暴力への対抗手段

災害サイクルにおけるジェンダー多様性の視点

災害サイクル		防災(予防)	応急対応	復旧・復興
ニーズ				
男女・多様な人々の意思決定への参加		←	戦略的ニーズ	
対応	多様なニーズへの			
	男性・女性のニーズ			
	多様な立場の人々のニーズ	←	実践的ニーズ	
暴力防止		←	土台・前提のニーズ	

c. 防災、災害対応、復興の事業・活動面だけではなく、組織面でも、人事配置・評価、事業サイクル管理、予算などに、上記a,bの視点が反映される

- 関連機関・団体の特に意思決定にかかわれるポジションの男女比
- 人事評価への反映
- 事業サイクル(計画⇒活動⇒評価⇒改善)にジェンダー別統計を活用して的確に状況判断
- ジェンダー平等のための事業予算を確保する

d. 女性防災人材のエンパワーメントと男性の学びの機会が保証される

自治会・町内会，自主防災組織とこのテーマでしっかり連携

- 地区の防災課題と結びつけ，男女共同参画の視点を導入することの有効性と必要性を周知
- 防災訓練や備蓄物資の見直し，避難所運営マニュアルの改訂などに合わせて導入
- 女性人材の育成に関して地域組織から担い手としての主体性を引き出す工夫が必要

地域で防災活動をしたい女性たちを継続して支援できる仕組み

- 防災の学びを提供しただけで，女性たちが地域で活動できる可能性は低い。
- 「自主防災会の役員が全て男性のため，入り込めない」，「組長をしていないので，防災の会議に出席できないと断られた」，「女性委員の位置づけは炊事班，救護班が役割分担とされ，提言，発言する機会がない」などの理由で，学んだ成果を活かせない女性も多い
- 活動の悩みや成果を共有できる相互支援のネットワークづくり，学んだことや経験から地域在住の講師として活動できるような機会の提供が有効
- 行政が予算面を含めた支援を行うことも考えられる。

補足:ジェンダー以外の社会層、多様性との関係について

地域の人々

高齢者 障がい者
子ども 傷病者 外国人

性別 (すべての属性と関わる)

性自認、年齢、国籍や母語の違い
家族構成、就労状況……

多様性への理解



力を発揮できる

- ・「災害時要配慮者」、「災害時避難行動要支援者」との関係
- ・性別、年齢、障がいの有無、家族関係、就労状態、性的指向・性別自認、国籍……
- ・特定の属性を備えた人が必ずしも脆弱とは限らない
- ・脆弱な人は、能力や回復力も持っている
- ・ジェンダーはすべての脆弱性要因の横断的要因である